

別紙

ミヨシ電子株式会社 広島事業所 温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称
ミヨシ電子株式会社 広島事業所
- (2) 事業所の所在地
広島県 三次市 東酒屋町 306番地
- (3) 業種
2814 集積回路製造業
- (4) 従業員数
344名 (関係会社従業員を含む)
- (5) 事業所位置図
別紙 (案内図) のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25 (2013) 年度を基準年度とし、平成26 (2014) 年度から平成28 (2016) 年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

別紙 … EMD-008B ミヨシ電子環境方針 参照

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成25年度
二酸化炭素	燃料の使用	算出不能	728	728
	他人から供給された電気の使用	算出不能	13039	13039
合 計			13767	13767

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素		排出無し		
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン		排出無し		
一酸化二窒素		排出無し		
HFC PFC SF ₆		排出無し		
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
総排出量				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位：売上高 (億円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成28年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	9253	185.59	49.9	5			47.4
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	CO2排出量の削減 (生産時のCO2削減)	動力設備の省エネ、製造現場の効率化及び省エネにより、2013年度比売上高原単位で2016年度に5%削減する	省エネ機器の導入 老朽化設備の更新 設備メンテの計画的な実施 省エネ啓発活動の実施 デマンド管理の運用と制御
2			
3			
4			

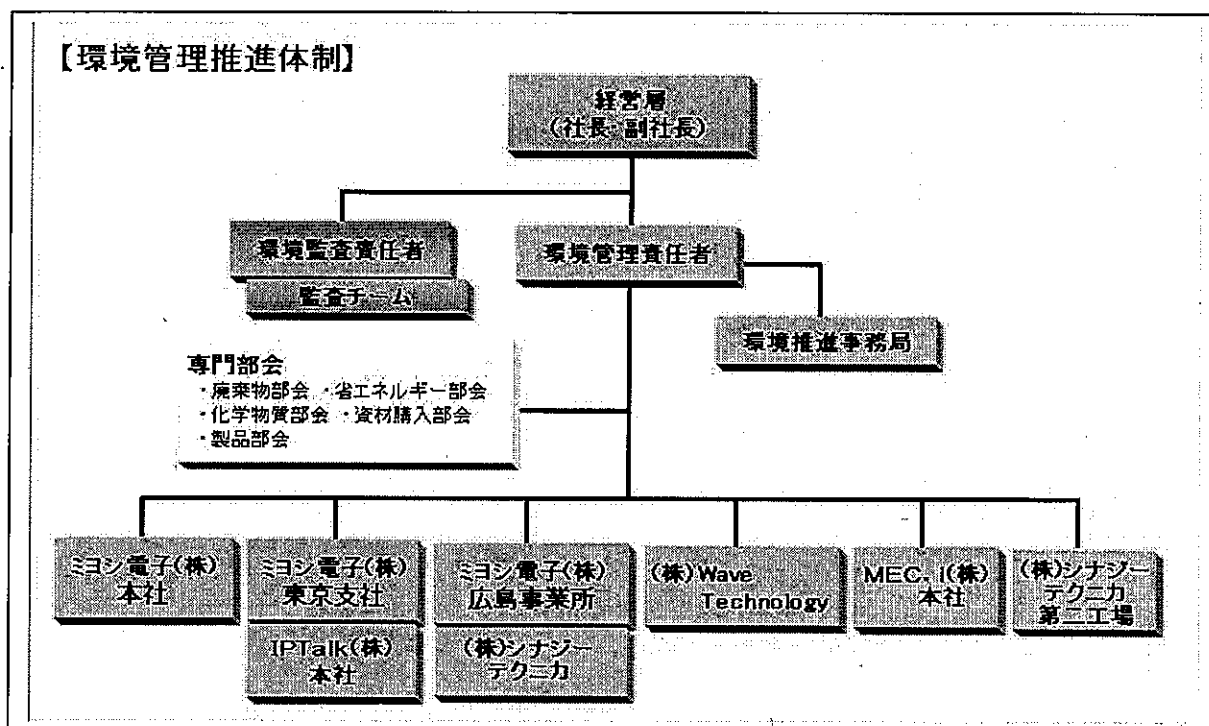
※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 環境に配慮した実践的な取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	D f Eの取組み推進	平成26年度までにアセスメントによる製品の改善率を100%以上とする。	アセスメントによる製品の改善
2	グリーン調達推進		環境配慮サプライヤーとの取引を推進する。
3	ステークホルダーへの積極的な情報提供		環境報告書の内容の充実、改良
4	地域貢献		1回/年の工業団地内清掃の計画・実施 地域清掃活動への参加
5	リサイクル率の維持	リサイクル率90%以上を維持する。	廃棄物の細分別化の実施 廃棄物のリサイクル化推進

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・ 1回／年 環境マネジメントレビューを開催し、環境管理の取組状況を経営層へレビュー・経営層の評価を実施する。
- ・ 環境マネジメントレビューにて環境管理計画の見直しを実施する。
- ・ 四半期毎に環境管理計画のフォローを実施する。

(3) 計画の公表

当社の環境報告書で公表する。

ミヨシ電子環境基本理念

人類地球の持続可能な発展のために、全ての事業活動及び従業員行動を通じ、豊かな地球環境の保全と継続的向上に努めます。

ミヨシ電子環境標語

「地球にやさしく、資源・エネルギーを大切に」

ミヨシ電子環境方針

ミヨシ電子は、半導体デバイス、厚膜基板、有線・無線機器、電子応用製品等の技術開発・製造機能を有し、製品の開発、製造における環境負荷低減の役割を担っています。

ミヨシ電子は環境問題を経営の重要課題の一つと認識すると共に、以下の通り環境方針を定め、事業経営との共生を図りながら事業活動、製品及びサービスの全てに適用し、汚染の未然防止と環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

1. 環境重点管理テーマとして以下の事項に取り組めます。
 - (1) 開発段階での環境配慮設計を強化推進する
 - (2) 環境配慮部材を優先使用（グリーン調達）する
 - (3) 廃棄物のゼロエミッションへ取り組む
 - (4) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量を削減する
 - (5) 環境活動に係る情報を積極的に開示するテーマ達成のため、環境目的、目標を設定し、具体的な活動の展開を図ります。
2. 環境関係法規、条例及びミヨシ電子が同意可能なその他の要求事項を順守します。
3. 関係官庁、地域住民、取引先と積極的なコミュニケーションに努め、また、地域社会との調和・貢献を図ります。
4. 環境方針は環境教育、広報活動等によりミヨシ電子全従業員に周知徹底します。
5. この環境方針は、社内外に公開します。

制定： 2000年6月30日

改訂： 2009年4月28日

ミヨシ電子株式会社

代表取締役社長 前川 泰久